

推敲あれこれ

原賀瓊子×高野公彦

⑬



◆「待合室」は「待合」ではない

高野 歌の推敲について、電話による対談で選者の皆さんにお話を伺っています。が、今月は原賀瓊子さんに登場していただきます。幾つか推敲例を用意してもらいました。

病院の待合の椅子混みあひてわれは坐らず壁ぎはに佇つ (原作)
 病院の待合室は混みあひて椅子に坐らず壁ぎはに佇つ (改作)

原賀 最近「待合室」のことを単に「待合」と言う人が増えましたが、二つは意味が違うので、改作では正しく「待合室」に直しました。

高野 「待合」は茶室に付属した建物、あるいは「待合茶屋」のこと、と辞書にありますね。

原賀 病院の場合は「待合室」です。
 高野 歌を作る時、字余りを避けようとして無理に言葉を短縮する人がいます。たとえば「駅へ小走りで行く」というのを「駅へ小走る」と言ったり(笑)。
 原賀 そうですね。「苦笑ひする」を「苦笑ふ」と言ったり(笑)。

キッチンの窓に射し入る陽のひかり八月のひかり今日まぶしかり (原作)
 キッチンの窓に射し入る陽のひかり葉月のひかりまぶしかりけり (改作1)
 キッチンの窓に射し入る陽のひかり年初のひかりまぶしかりけり (改作2)

原賀 原作の「まぶしかり」は終止形ではなく連用形なので、歌が完結しませんね。それを「まぶしかりけり」と直して完結させたのが改作1です。

高野 さらに「八月」を「葉月」に変えたのは、字余りを避けるためですね。

原賀 ええ。そして、もしこれが自分の歌だったら、思い切つて改作2のように直してみたいです。

高野 これは大変身ですね(笑)。

原賀 光がもつとも眩しく感じられるのは、年初の光だと思えますので。

高野 内容を大きく変える。これは作者の特権ですね。素晴らしい推敲です。

◆言葉つかいの不揃い

このわれを受けとめえざる夫がをり夫を受けとめえざるわれあり (原作)
 このわれを受けとめえざる夫をりて夫を受けとめえざるわれをり (改作)

原賀 原作は夫の「をり」と、自分の「あり」が不揃いで、落ち着きが悪いです。
 高野 この不揃いは目立ちますね。

原賀 そこで両方を「をり」で統一した

んですが、そのついでに三句目を連用形
の「をりて」に変えました。

高野 原作の「夫がをり」の「をり」は、
連用形か終止形か不明です。つまり三句
切れの歌なのかどうか、それが曖昧です。
そこをはっきり連用形で表現したのは、
いいですね。

夕日あぶるバラの蒼はふくらみの大き
くなりて明日はひらかん (原作)
夕光にバラの蒼はふくらみの大きく見
えて明日はひらかん (改作1)
夕光に百合の蒼はふくらみの大きく見
えて銕をこばむ (改作2)

原賀 原作の初句は字余りなので、大人
しく「夕光に」と直しました。それに、
夕日のお蔭で大きくなる、というのは変
なので、「大きく見えて」としました。

高野 落ち着いた歌になりましたね。

原賀 それから、蒼の大きさが目立つ花
はバラよりも百合のほうがびったりする
ので、百合に変えたのが改作2です。

高野 凄い。原賀さんは自由に歌の内容
を変えてゆく。推敲の女王です(笑)。

原賀 まあ、そんな(笑)。

◆助詞「も」は通俗的

負け越すも休ませざる大関のその頑張
りをほればれと見る (原作)
負け越せど休ませざる大関のその後の
力相撲の白星 (改作)

高野 ここからは私の用意した推敲例で
す。新聞の見出しなどで「チャンスが来
たけれど三振」と言うところを、「チャ
ンスが来るも三振」と言ったりします。
でも短歌で、「…だけど」の意味で「も」
を使うと通俗的になります。

原賀 それで「負け越すも」を「負け越
せど」になさった。

高野 ええ。ついでに原作は下句が平凡
な感想にすぎないので、少し具体的にに
てみました。

原賀 「その後の力相撲の白星」、いいで
すねえ。イメージが浮かんできます。

◆述語の省略はダメ

帰省せし孫の三人それぞれに野球にバ
イトに就活のこと (原作)

帰省せし孫三人の語ること野球やバイ
トや就活のこと (改作)

高野 帰省した孫が何をしたのか、原作
には述語がない。

原賀 述語を省略すると、歌が通俗的に
なりますね。

高野 そうなんです。それから、三つの
ものを並べて「AにBにC」と言うのは
これも通俗的なので、「AやBやC」と
いう言い方にしました。

原賀 二つ以上のものを「に」で繋ぐの
は本当に通俗的ですね。昔、映画館でよ
く耳にした売子の呼び声は「えー、オセ
ンにキヤラメル、アンパンにノシイカ」
でした(笑)。

高野 この「に」は全くウンザリします
が、でも歌の内容はいいですね。

原賀 はい。三人のお孫さんは都会に住
む高校生や大学生で、それぞれ野球やバ
イトや就活に打ち込んでいることが分か
ります。

高野 ええ。今日は、中身をガラリと変
える推敲もある、という例を示していた
だいて、ありがとうございます。

イラスト「鬼に金棒」(高野公彦画)